

焦点 本県林業の課題と重点施策



日本経済の高度成長過程は、経済体制内部にさまざまな矛盾を巻き起こしながら進行している。林業特に木材はその矛盾がもっとも深刻にあらわれた部門のひとつである。その根源はゆうまでもなく、日本経済の急速な重化学工業化を主軸とする経済発展を基礎とした木材需要構造の変化、ならびに需要の急増にたいして、大部分が非企業的な経営によって担われている林業生産が充分対応できないところにある。そしてこのような矛盾が林業生産内部だけで問題とされるのではなく、林業生産の立ち遅れが日本経済の拡大再生産に重大な障害を与えるであろうことが憂慮される状態になってきている。その一つのあらわれが三十年以降の外材輸入の急増であり、三十八年には綿花について輸入品の第三位にのしあがり、今後なお増加が予想され、我国貿易

取支上重大な問題となった。そして木材資源の国内自給率の向上が緊急に検討されねばならない課題となっている。従来本県は、全国的にも木材供給の雄県として木材生産量も全国上位にあったが、戦中戦後の乱伐の影響もあって、近年生産量もようやく低下の傾向が見られるが、今後の旺盛な需要に対応する生産態勢の整備を急がねばならない。林業構造改善事業もこうした生産態勢をととのえる政策として生れて来た。さらに経済の成長にともない山村からの労働力の著しい流出は、林業労働力の不足、賃金の高騰という形で林業各般に影響し、木材価格の横ばいと相まって造林実績の伸びなやみが見られる。なお近年の本県における相次ぐ集中豪雨禍にかんがみ、国土の保全、治山治水面からも山林のもつ国土保全機能を強

化する措置の緊急性が高まって来た。且つ新産都市の指定にともなう水資源確保の見地からも、山林の保水機能の強化をなお一層推進することが必要になる。ともあれこのような諸問題を抱えながらも、今後なお木材資源に対する需要は年々急増する見通しが立てられており、外材については世界の木材資源の現状からも、逐次コスト高となり、国内需要増に対して供給面で努力しなければならぬ点は、国内木材資源の培養と開発に集中されよう。そこで県においては、このような林業をとりまく諸条件の変化に対応して、林業の施策もまた、次に述べる六本の柱に焦点をしばり、県民所得の向上に寄与しようとしている。

■第一の柱は短期林業の作興振起である
先に述べたような旺盛な需要に対応して、木材資源の供給力増大をはかるために、本県の立地、特性を生かした早期育成林業を推進して概ね十年前後の伐期短縮をはかる。これがため暖地においては「モリシマアカシヤ」の造林を積極的に進める一方、温暖地においては、早成系統の精英樹造林を促すため、国の施策に則り林木品種改良事業に加えて県有林においては精英種苗の増産を率先的に実行し、さらに林地肥培や新植裁法等の実践を試みることにしている。

■第二の柱は国土保全と水資源確保対策の推進である
近年の相次ぐ災害対策として、山地治

山をできうるかぎり短期間に整備出来るように、本年より特別緊急治山事業の指定をうけると共に、保安林整備措置法の改正を機に水資源確保のため保安林の再配備を進める。

さらに停滞気味の拡大造林計画促進のため森林開発公団等の資金を活用して、未利用原野の造林を進め、県有林においては新期林地を購入し拡大造林を率先実施する。

民的に実施し、小規模林道については、里山開発や山村振興等総合効果の高いものから優先的に実施する計画である。

■第四の柱は森林組合の自立振興対策である
民有林の経営合理化や、山村振興は経済団体である森林組合の自立振興がその基盤である。このため、組合の自立振興の基礎となる受託経済事業を活発に実施出来るよう、総合的に県の各種施策を集中し、重点的に推進する計画である。

なら特殊林産物の生産は林業生産の横軸であろう。特に本県は気候風土と地形に恵まれており、多くの山の幸が包蔵されている。且つまた零細な経営者の多い本県の場合、将来性と安定性のあるタケノコ、竹材、椎茸、山栗、わさび等を計画的に生産することは、短期に所得増大に寄与するところが極めて大きいと思われる。地域の特性に即し森林組合が主軸となり、その振興を推進する計画である。

幸い新産都市指定による工業団地造成を機に、その一環として木材加工団地造成を促進する。これがため外材を含めた木材流通機構の整備を緊急の課題として、関係諸機関団体と協力してその促進をはかりたい。

以上本県林業の当面している課題と、これにとり組む県の主要施策の概要を述べたが、その何れをとりあげても、曲り角に立つ林業の基本的な課題ばかりである。

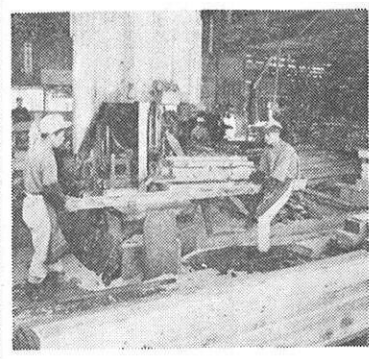
■第三の柱は林道網の整備充実である
森林資源の開発並びに森林経営上の重要施設である大規模林道については、県東南部の奥地など未開発林の開発を重点

■第五の柱は特殊林産物の多角的振興である
経済林の造成が林業生産の縦軸とする

■第六の柱は木材加工団地の造成ならびに、流通機構の整備促進である
従来木材供給県である本県は、消費県に比べ木材流通機構の立ち遅れがめだっ

焦点をのぞく

合理化を進める 加工業界



製材工場もオートメ化へ

木材加工業者から云わせれば、山村経営者は保守的で、売りおしみをする頑固者ということになり、山林経営者のみる加工業者は、原木を買いたたき、その分だけ利潤をあげている悪者ということになるらしい。ことに内地材の買い付けが頭打ち、外材の急速な伸び、弱小製材工場の乱立、こんな現状の中では、素材の売手、買手の利害対立は、一層はげしくなるのであろう。

しかし、こういった旧い形態の流通関係を続けたのでは、とうてい積極的な林業近代化を前進させるといことはむずかしいのではないか。

球磨郡免田町のある製材工場などは、早くから合理化に手をつけてきているの

だが、ほとんどオートメ化されて、人影もまばらな工場は、流れ工程の生産システムが見事だ。

さらに、この工場では、製函、チップ、木綿オガ屑炭と、製材に関連する木材加工のいくつかをも手がけ、より効率的な生産をねらっているのが注目される。

むしろ、合理化、機械化の場合に、同工場でも指摘するように、設備投資に要する担当額の資金および金利の問題、投資効率があげられるための原木の手当ての問題、これらの、十分な検討なしの合理化、機械化はあり得ないだろう。

熊本林材界の課題は、第二次加工の面で大きな遅れをとりもどすための方策であろう。(W)

<交通安全の合言葉>

いつでも
どこでも
交通安全

★交通事故をなくする熊本県民運動推進本部